

## 平成27年度第2回山形県環境審議会環境計画管理部会 議事録

### 1 日 時

平成28年1月25日（月） 午後1時30分～午後3時20分

### 2 場 所

山形県庁講堂

### 3 出席者等（敬称略）

#### (1) 出席した委員及び特別委員

青柳 紀子 伊藤 哲哉 國方 敬司 佐藤 昇  
鈴木 正明 内藤いづみ 二藤部真澄 山崎多代里  
中井 孝明（東北経済産業局長代理） 高玉 正二（東北地方環境事務所長代理）

#### (2) 欠席した委員

石井 範子 松岡由美子 三浦 秀一 皆川 治

#### (3) 出席した事務局職員（課長級以上）

環境エネルギー部長	柴田 智樹
環境エネルギー部次長	永澤 浩一
環境科学研究センター所長	澤根 敏弘
環境エネルギー部環境企画課長	奥山 卓郎
エネルギー政策推進課長	渡邊 丈洋
水大気環境課長	石垣 清志
循環型社会推進課長	秋場淳一郎
循環型社会推進課廃棄物対策主幹	小野 保博
みどり自然課長	高橋 正美
みどり自然課みどり県民活動推進主幹	土方 孝宮

### 4 会議の概要

#### (1) 開 会

#### (2) 挨拶（柴田環境エネルギー部長）

#### (3) 議 事

##### ① 議事録署名人の指名について

國方 部会長	審議会運営規則第7条の規定により、「審議会の会議については、議事録を作成し、議長及び議長の指名した委員2名が署名する」とされていますので、私以外の議事録署名人として、青柳紀子委員及び伊藤哲哉委員を指名します。
-----------	--

② 第3次山形県環境計画、山形県地球温暖化対策実行計画及び第2次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直しに関する報告事項

國方 部会長	当部会の調査審議事項となっております第3次山形県環境計画、山形県地球温暖化対策実行計画及び第2次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直しに関する報告事項として、①の「平成27年度県政アンケート調査結果について」から③の「平成25年度山形県内の温室効果ガス排出量（推計値）について」までを続けて、事務局から報告をお願いします。
事務局	配付の資料1から資料3までに基づき、①平成27年度県政アンケート調査結果について、②地球温暖化対策に係る最近の国の動向について、③平成25年度山形県内の温室効果ガス排出量（推計値）について報告
國方 部会長	ただいまの事務局の報告に対し、委員の皆様から御質問などございますか。
内藤委員	平成25年度山形県内の温室効果ガス排出量（推計値）中、山形県の一人当たり二酸化炭素部門の排出量について、冬期間の暖房や人口当たりの自家用乗用車数が多いことから民生家庭部門や運輸自動車部門が全国に比べて高い状況とこのことですが、同じような状況と考えられる東北各県との比較はありますか。
環境企画 課長	東北各県との比較は現在行っていない状況です。
國方 部会長	比較したものを次回にお知らせいただければと思います。
青柳委員	同じく平成25年度における山形県の一人当たり二酸化炭素部門の排出量について、過去の推移はわかりますか。
環境企画 課長	次回に過去の推移をお示しさせていただければと思います。
國方 部会長	この点についても、次回報告いただければと思います。

③ 第2次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直し（骨子案）について

國方 部会長	「第2次山形県循環型社会形成推進計画の中間見直し（骨子案）について、事務局から説明をお願いします。
-----------	---

事務局	<p>配付の資料4から資料6までに基づき、計画の中間見直し（骨子案）やスケジュールを説明</p>
國方 部会長	<p>ただいまの事務局の説明に対し、御意見、御提言をお願いします。 皆様から御発言いただきたいので、名簿の順番に御指名申し上げますので、お一人4分程度で御発言をお願いします。 事務局への御質問がありましたら、併せてお願いします。</p>
青柳委員	<p>高齢化社会の到来に備えた具体的な体制について、県で議論しているものはありますか。</p>
循環型 社会推進 課長	<p>実際の議論はこれからですが、全国でも数少ない例として紙おむつの燃料化に取り組んでいる事例もあります。一般廃棄物は全体として減っているものの、事業系一般廃棄物は増えており、高齢者関係施設から排出される紙おむつなどが増えてきていますので、まずは課題として整理しているところです。</p>
青柳委員	<p>介護分野では使い捨てのものを使うことが多い気がします。繰り返し使えるものがあれば、再使用するよう誘導することも一つの方法だと思いますので、御検討いただければと思います。</p>
伊藤委員	<p>東日本大震災からもうすぐ5年になりますが、震災直後は、物や電気などの大切さが身にしみたと思いますが、そういった感覚も薄れてきていると思います。食品廃棄物を横流しした事案があり、食品ロスに対する問題意識も高まっています。廃棄物対策の観点からも食品ロスを減らす努力が必要であると思いますが、県内の現状は把握しているかどうか、計画の中に位置付けられるかどうかお伺いします。また、フードバンクといった取組みの現状と県の対応についてお伺いします。</p>
循環型 社会推進 課長	<p>食品ロスについて、県内の状況を把握したデータはありませんが、京都市の調査で、家庭から出る生ごみのうち約2割が食されずにそのまま捨てられた食品であったというデータがあります。調理による生ごみ以外にも、購入して消費されないことによるものが相当量あるということです。現在の計画の中でも取り上げているところですが、しっかり対応していきたいと思います。</p> <p>今回の事案を受けて、動植物性残さを取扱う県内の産業廃棄物処理業者の立入検査を行っておりますが、今回に限らず、廃棄物処理業者に対する研修や立入調査などを通して適正処理の指導、確認を行っているところです。また、廃棄物を排出する側には、廃棄物の処理の状況について確認する努力義務がありますので、県内の事業者に対し、指導や普及啓発をしていかなければいけないと思っています。</p> <p>フードバンクについて、事業者や団体の間で取り組まれている話は聞いてい</p>

<p>佐藤委員</p>	<p>ます。これに限らず、様々な事業者が食品トレイなど廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。こうした取り組みを今後も計画の中に位置付けて推進していきたいと考えています。</p> <p>3Rの取り組みについて、マイバッグ持参など以前に比べて少し減ったと感じています。若い人たちの環境意識が減っているような、教育の中で3Rの取り組みが以前のように浸透しないと、それが親にも反映されないと思います。教育庁との連携も含めて取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>また、環境省が毎年実施している循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰の受賞者の取り組みをまとめた3R活動先進事例集をホームページで見ました。山形市の「もったいないねっと山形」も過去に3R活動推進功労団体として選ばれておりましたが、学ぶべき活動内容がありましたので、そうした先進事例を事業者へ紹介して、事業者系一般廃棄物の削減などエコへの取り組みを進めていただきたいと思います。</p> <p>それから、自治体が主導して、決まった日に古紙などを資源物として買取する取り組みが盛況であるという報道を見ました。そうした取り組みを県がイニシアティブをとって進めるといったこともいいと思います。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>計画の基本的数値目標のうち産業廃棄物の最終処分量について、現計画の目標と比較して達成が困難と思われるので、御検討いただけないかと思います。</p> <p>また、食品廃棄物の横流しについて、例えば、カレーの箱に誤ってハヤシライスを入れてしまった、また、食品衛生法に基づく表示事項の記載を誤ってしまった、そのために1ロット、1工程を全量廃棄しなければならないなど、皆さんが考えている以上に食品廃棄物が多いということが現状です。処理事業者は、横流しはもちろん、盗まれることのないよう管理しなければなりません。また、焼却処理するにしても冷凍のものは焼却に時間がかかりますし、解ければ腐敗臭がしますので、処理に苦慮しているところです。フードバンクのような、売れないもの、捨てるものを安全に流通させる方法、システムがあれば無駄を減らせると思いますので、県でも考えていただきたいと思います。</p>
<p>内藤委員</p>	<p>一般廃棄物は、私たち生活者が原因を作っており、私たち自身が解決すべき問題であることから、今一度県民みんなが意識することが大切だと思います。計画の見直しにあたって、人口減少や核家族化、高齢化社会といった社会構造の変化という問題のほかに、ライフスタイルの変化とモラル意識といった視点を組み込んでいくことが必要だと思います。</p> <p>基本的数値目標の見直しについて、現状より厳しい目標を設定していることは良いことだと思います。ただ、一般廃棄物の各項目は、将来予測と比較すると開きがあるので、細かい年次計画を立てるなど効果的に事業展開をしないと達成は困難ではないかという懸念があります。</p> <p>また、施策に係る現状と課題のうち、一般廃棄物のリサイクル率が伸び悩ん</p>

	<p>でいることについて、ライフスタイルの変化の視点が必要だと思います。県政アンケート中、「古紙や古布、空き瓶などを地域の集団回収に出す」割合は、20代と30代では66%ほどでした。本来であれば決まった曜日に出さなければなりません、若い世代に関しては柔軟に出せる仕組みがあつていいのではないかと思います。例えば、資源物の引取事業所に持ち込む場合、連絡することなく決まった時間であれば自由に持ち込める仕組みがあればリサイクル率も向上すると思いますし、山形市で年末に行ったドライブスルー形式での小型家電回収も非常に好評であったとのことから、ライフスタイルの変化という視点で柔軟な回収の仕組みを打ち出していければいいと思います。ただ、モラル意識の視点から、決まった曜日に出すことを基本とし、出せない場合はそうした柔軟な回収でフォローすることが、ごみの減量につながっていくと思います。</p> <p>同じく県政アンケート中、「市町村指定に従いごみの分別を徹底する」割合は、20代では約60%ということで、同居している親が担当していると解釈して済む問題なのか、あるいは分別が面倒であるというモラル意識の低下であるとしたら、環境教育の中で確認していく必要があると思います。</p>
<p>二藤部 委員</p>	<p>東根市で子育て支援の場を使って環境関係のイベントをする機会がありましたが、遊ぶことを目的に来場したついでにイベントに参加する親子もいました。物を見せて何色のごみ袋に入れるかというごみの分別に関するクイズを行いました、子どもたちは、燃えるごみと燃えないごみくらいの区別はすぐ付くものの、家庭で自分がやっていないこともあり、資源ごみとプラスチックごみの区別がつかない子供がいました。更に、大人でも区別がつかない方がおり、細かいところになるとまだ浸透していないところがあると感じました。そして、環境関係のイベントにはなかなか足を運ばない方に対しても、産業まつりや子育てのイベントにおいて親子で楽しく学ぶ機会などを通した普及啓発が重要であり、リサイクル率の向上にもつながると思います。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>基本的数値目標など示されておりますが、国、県、そして市町村と具体的に連携して行う難しさが、また、この計画を住民に一番に知っていただくことが大事であると思います。市町村や住民が取り組んでいく部分も示していただきたいと思います。</p>
<p>循環型 社会推進 課長</p>	<p>計画の実現に向けて、県民の皆様、事業者の皆様、多くの方々から内容について理解いただいて、一緒に取り組んでいく必要があると思います。普及啓発についてしっかり進めていきたいと思ひますし、今回大枠としてまとめた骨子案をもとに、より詳細な素案を今後作ってまいります。</p>
<p>中井特別 委員代理</p>	<p>県政アンケートについて、「ごみの減量やリユースなどの取組み状況」とあるが、リサイクルについても関心を持っていくため、表現を工夫した方がいいと思ひました。</p>

高玉特別 委員代理	<p>また、計画の基本的数値目標のうち事業系一般廃棄物の数値目標について、かなり高い目標のため、抜本的な対策が無いと達成が難しいと思います。施策の強化中、具体的な取組みとして記載してある、工業団地を対象に紙ごみの回収などのようなリサイクルの推進もいいと思いますし、大手企業でCSRの観点も含めまとめている環境経営報告書に記載されている排出削減の取組みについて、中小企業などに取組みの参考にしてもらう方法もあると思います。山形県には切削工具のリサイクルを行う企業や製造工程で出るプラスチックの使われな部分再びプラスチックの素材として使う企業など、他の地域にとってもモデルとなっているところがありますので、そうした事例を基に推進を図る方法もあると思います。</p> <p>それから小型家電リサイクルについて、小型家電リサイクル法の認定事業者が所在する一関市、八戸市、大館市では、使用済小型家電から回収された金属を東京オリンピック競技大会のメダルに活用することを大会組織委員会に提案しており、一関市では、使用済小型家電で金メダルを作ろうというキャンペーンで回収していると聞いています。山形大学工学部では、昨年、グリーンマテリアル成形加工研究センターを開所し、リサイクルも含めた次世代のプラスチックの研究を行っています。そうした取組みもアピールしていいと思います。</p> <p>温室効果ガスの排出削減にむけた新たな国際枠組みを決定することを目的として、昨年末、フランスのパリでCOP21が開催され、2030年度に2013年度比マイナス26%という約束草案を着実に実施していくこと、2020年に官民あわせて年間1兆3000億円の途上国支援を行うことを発表しております。温室効果ガスの削減に向けて引き続きよろしくお願ひします。また、昨年11月に気候変動の影響への適応計画が閣議決定されました。政府として初めて作り、今後、県や政令市に計画の策定をお願いするというので、今年度は9県2政令市で策定いただくということで取り組んでおりますので、取組みに対しての協力、理解をお願いします。</p> <p>それから、廃棄物対策関係について、東日本大震災を受けて大規模災害への備えの重要性が改めて認識される中で、大震災の教訓、災害廃棄物処理の課題など検討を踏まえ、このたび廃棄物処理法に係る国の基本方針を改定し、災害対策の強化を図ったところです。各地方公共団体においては、災害廃棄物処理計画を行っていただき、円滑かつ迅速に処理する備えをお願いします。合わせて、南海トラフ地震や首都直下地震など大規模災害の発生の対応として、日本全体で迅速に処理する備えの必要性も踏まえた改正を行っています。国や地方公共団体、事業者等の連携、協力が必要となることから、地方環境事務所が中心となり災害廃棄物対策連絡会を立ち上げています。山形県にも参画いただき、地域ブロック内の関係者が共通の認識のもと、お互いが連携、協力した形で、地域ブロックでの大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動計画の策定に向けた議論を行う予定ですので、協力をお願いします。</p>
--------------	--

	<p>小型家電リサイクルについて、環境省でも実証事業に取り組むなど力を入れておりますので、引き続き協力をお願いします。</p> <p>最後に、食品廃棄物の横流しについて、環境省では食品リサイクル法の推進を行っているところですが、先進的な処理については支援事業もありますので、事業者からの相談があれば対応くださるようお願いいたします。また、今回の事案に関連した産業廃棄物処理業者への立入検査について協力いただきありがとうございます。今後とも食品リサイクル法に基づく登録事業者への対応など、連携、協力をお願いします。</p>
<p>國方 部会長</p>	<p>基本的数値目標について、非常に意欲的な数値と思いますが、目標を達成するためには、大胆かつきちんと計画を立てて進めていく必要があると思います。</p> <p>また、廃棄物と言っても食品から紙など様々あるので、一絡げでなく、具体的に個々の廃棄物の形態に合わせてどういった形で削減していくか、細かに考えていかないと削減が進まないのではないかと思います。私自身、山形市のごみ問題に関わってきた経験を申し上げると、ごみの有料化を進めて家庭系の一般廃棄物はそれなりに減っているものの、事業系一般廃棄物はむしろ増えており、全体としての一般廃棄物の削減が数値として見えない、市民の皆さんの努力が数値として見えないことは非常に困った状態と思っています。事業系一般廃棄物をいかに削減していけるか、廃棄物の形態に従ってどういった手法をとれば減らしていけるか、そうした点も今後検討くださるようお願いいたします。</p>
<p>國方 部会長</p>	<p>事務局には、委員の皆様からありました御意見、御提言を今後の策定作業に活かしていただきたいと思います。</p> <p>以上をもちまして、本日の議事を終了いたします。</p> <p>御協力ありがとうございました。</p>

— 議事終了 —

(4) その他（事務局から次回の環境計画管理部会の開催について案内）

(5) 閉 会

議事録署名人 部会長 國 方 敬 司  
 委 員 青 柳 紀 子  
 委 員 伊 藤 哲 哉